

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報

# 第1号

# 果樹

発行日 平成29年3月16日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net/agri/>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 花芽率は平年並ですが、地域、品種によるバラツキが大きい傾向にあります！
- ◆ 発芽は平年並と予測！！ 春作業を計画的に進めましょう！

## りんご

### 1 花芽の状況

平成29年産りんごの花芽率は、全般的に「つがる」、「ジョナゴールド」、「ふじ」とも平年並となっていますが、「ふじ」で平年以下の地点もみられ、地域的なバラツキがみられます。平成28年は、8月に3つの台風が接近し降水量が多かったことなどから、花芽率低下が心配されました。しかし、花芽形成期である6～8月の日照時間は7月が平年並、8月が多めで推移したことにより、花芽率は平年並となったと推察されます。

一方、弱小花芽率もほぼ平年並ですが、県内各地で平年より高い地点・品種があり、バラツキがあります。過去数年は土壌の乾燥状態が続き、樹勢低下していたことに加えて、平成28年8月の降雨により排水不良となり、さらに樹が衰弱したことで花芽の充実が劣り、地域的に弱小花芽率が高くなったと考えられます。

今年の花芽率は平年並ですが、弱小花芽が多い地点も例年より多いことから、花芽の質が低い園地が多くなることが予想されます。早めに花の質を見極め、計画的に作業を進めてください。

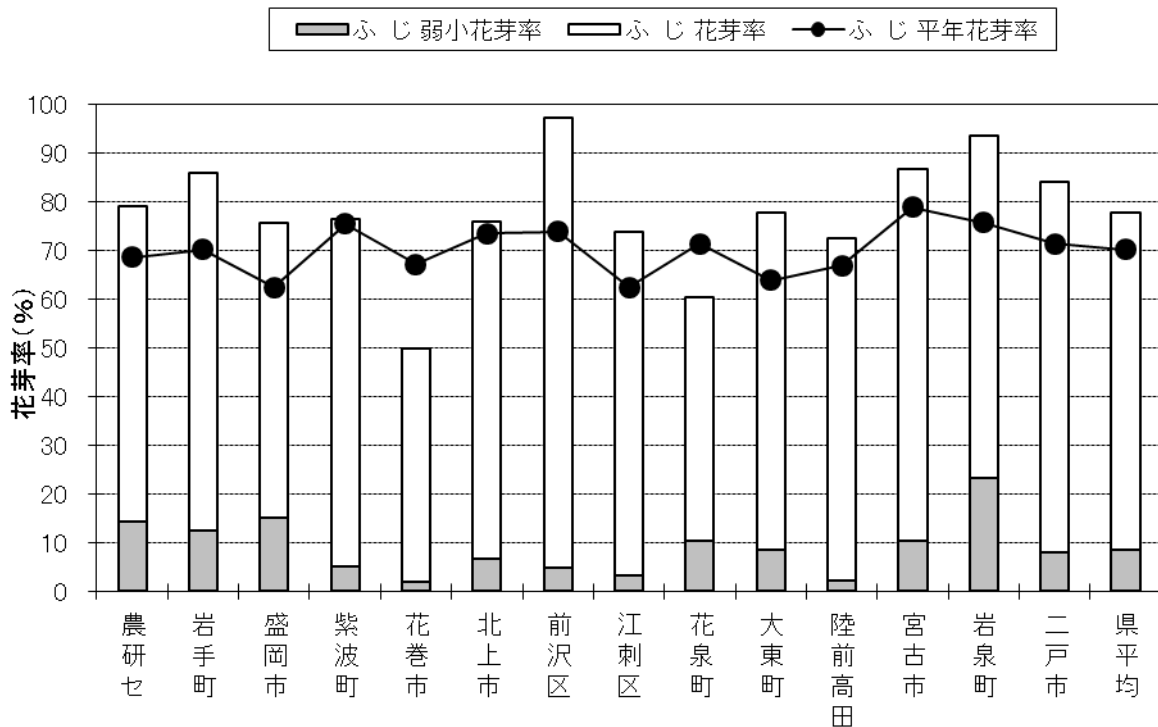


図1 平成28年度(平成29年産)ふじの花芽率

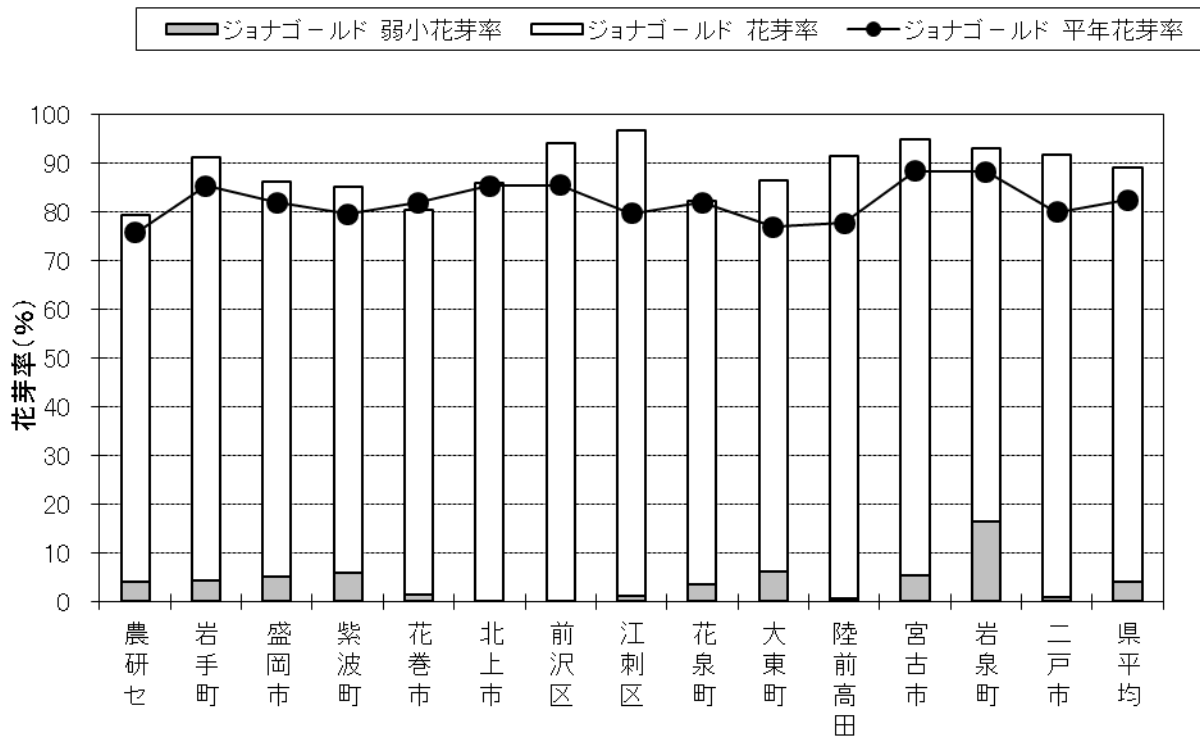


図2 平成28年度(平成29年産)ジョナゴールドの花芽率

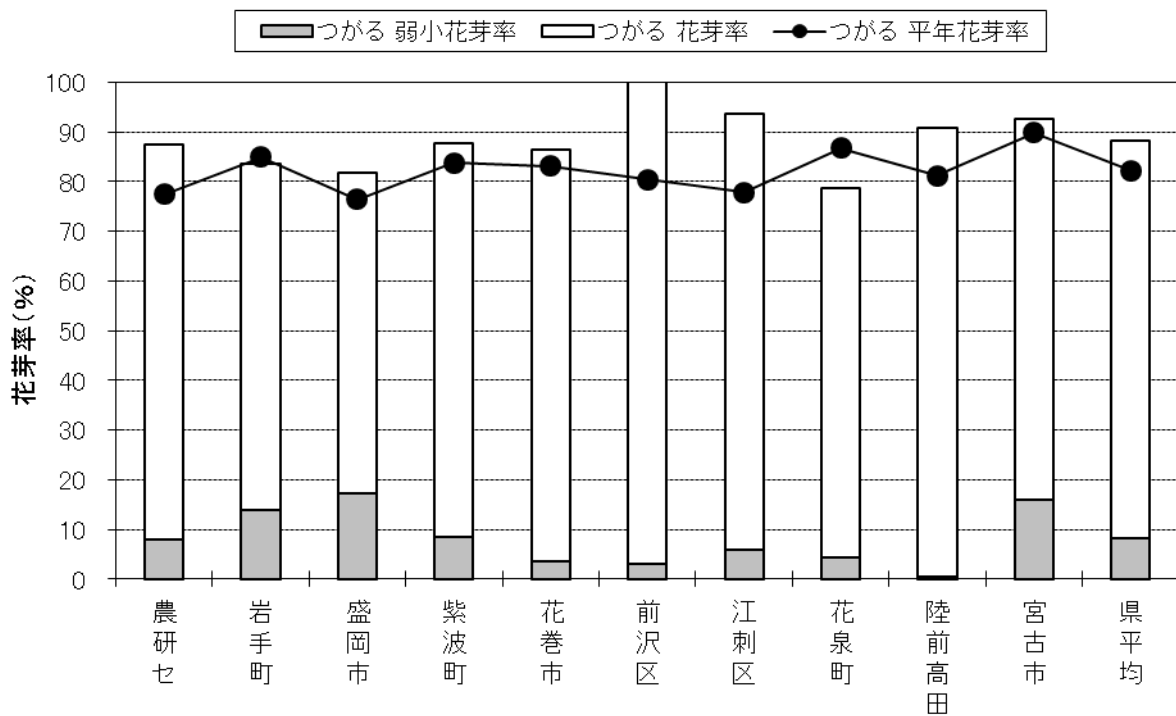


図3 平成28年度(平成29年産)つがるの花芽率

## 2 発芽予測

3月10日時点のメッシュ気象情報システムを用いたりんごの発芽予測では、平年並の見込みで、県南や沿岸地区でやや生育が早まる予測となっています（表）。

本予測結果は予測日（3月10日）以降の気温が平年並みで推移した場合の予測日であり、今後の気温経過により生育が一気に早まる可能性があり、そのような場合、凍霜害に遭遇する確率が高まります。

今後も気象予報には十分に注意し、桜の開花前線やツバメ飛来等周辺の生物季節の推移を参考に、せん定や防除の準備等を進めましょう。

「ふじ」の発芽予測結果(3月10日時点)

	発芽予測日	平年発芽日	予測日の 平年差
岩手町一方井	4月16日	4月13日	3
盛岡市三ツ割	4月11日	4月10日	1
紫波町長岡	4月10日	4月8日	2
花巻市上根子	4月9日	4月7日	2
北上市更木	4月7日	4月7日	0
奥州市前沢区	4月4日	4月4日	0
奥州市江刺区	4月10日	4月10日	0
一関市花泉町	4月5日	4月4日	1
一関市大東町	4月8日	4月9日	-1
陸前高田市米崎	4月2日	4月6日	-4
宮古市崎山	4月7日	4月7日	0
岩泉町乙茂	4月11日	4月9日	2
洋野町大野	4月14日	4月14日	0
二戸市下山井	4月10日	4月9日	1
平均	4月8日	4月8日	1

※予測日は3月10日以降の気温が平年並で推移した場合

## 3 作業の留意点

- (1) 防除作業や各種管理作業は、生育ステージに合わせて進める必要がありますので、薬剤の準備、せん定枝の片付けなどの園地整備を早めにし、作業の遅れが生じないようにしましょう。
- (2) りんごの花器は、開花期に近づくにつれ、低温耐性が下がってきます。さらに、近年の気象は変化が大きく、極端な低温による凍霜害発生の危険性が否定できません。燃焼資材の準備、防霜ファンの点検、防霜対策用スプリンクラーの設置など対策の準備を進めましょう。また、霜害の事後対策としては、人工授粉による結実確保が重要なので、花粉の準備も合わせて進めましょう。
- (3) 病害虫の発生状況については、病害虫防除所が発行する防除情報を参考に、適期防除に努めましょう。

次号は4月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。